

今日、グローバル化、情報化、そして社会の在り方が劇的に変わるSociety 5. 0時代の到来等により、子供を取り巻く環境が多様化・複雑化しています。これら、変化の激しい予測困難な時代を生き抜くために、一人一人の子供が、自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、SDGsに取り組む持続可能な社会の創り手となるように、その資質・能力を確実に育成することが学校教育の喫緊の課題です。

このような状況において、義務教育機関である中学校には、子供たちの知・徳・体を一体で育むこれまでの学校教育の役割を継承しつつ、全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる「令和の日本型教育」の実現が求められています。そして、この新しい令和の教育改革を果敢に推進していくためには、学習指導要領の着実な実施、「GIGA スクール構想」による1人1台端末環境下における学びの充実が必須です。これまで行ってきた授業改善を進めるとともに、学習評価についてもより一層、指導と評価の一体化を図らなければなりません。

さて、本校は、令和4・5年度「金沢型学習スタイル実践推進事業・教科一般・学習評価の充実」重点課題推進校の指定を金沢市教育委員会より受け、研究に取り組んでおります。「思考力・判断力・表現力の育成を目指した学習評価の工夫」を主題に掲げ、「主体的・対話的で深い学びを通して」を副題として、学級全体での学び合いを図ることを継続実践しています。「何を学ぶか」と同時に、安心・安全を確保し距離を工夫したグループ活動の実施により、「どのように学ぶか」において主体的に学び合う関係ができつつあります。生徒が自己肯定感を高められるよう、「わかった・できた」と実感できるような授業づくり、学習評価の充実を目指し「何ができるようになるか」を教師と生徒で共有することや、生徒が深く学び合いたくなる課題設定について研究を進めてまいりました。1人1台端末の活用においても、効果的な活用の仕方について検討する段階に入りました。まだまだ道半ばではございますが、私たちは、この研究校指定を通じて自分の教科の専門性や教師力、授業づくりについて見つめるチャンスをいただきました。

研究実践は同僚性を構築していく上での土俵ともいえます。今後はさらに質の高い学びづくりへと学校力を高めるとともに、エビデンスを大切にして、生徒の学力向上のための検証・研究実践を蓄積していきたいと存じます。

最後になりましたが、本校の研究を進めるにあたり、学習指導要領作成にあられた元文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、現京都女子大学教授の水戸部修治先生、金沢市教育委員会の皆様にはたくさんのご指導、ご助言をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

令和5年

金沢市立紫錦台中学校 校長 宮崎 祐子